

質疑及び一般質問

令和7年2月25日、27日、28日に開催された質疑及び一般質問では、次の議員が質問を行いました。
各議員の質問の中から1問をピックアップし、その要旨を掲載します。

CHECK! 白熱議論を映像でご覧ください!

各議員の横にある二次元コードから、掲載の質疑及び一般質問の映像を見ることができます

2月25日 (火)



大林 裕子 自由民主党
(北群馬郡)



▶ 県立小児医療センターの移転整備について

移転に向けて群馬大学医学部附属病院との役割分担や連携が十分に機能するために、環境整備が必要であるが、どのように考えているか。

A 病院局長

群馬大学医学部附属病院と2病院で「総合周産期母子医療センター」の指定を受けることで、成人診療科との連携による県内小児周産期医療の強化を目指す。将来的には2病院を上空通路で接続し、患者動線の向上やスタッフの自然な交流の実現に向けて調整していく。総合病院との隣接効果を活かし、子どもの頃からの疾患を抱えたまま成人期に達した患者への対応など、課題解消に向けた取組を進めてまいりたい。



加賀谷 富士子 リベラル群馬
(伊勢崎市)



▶ 県営住宅について

県営住宅の入居待ちの状況はどうか。また、老朽化が進んでいるものが多いと聞いているが、今後の修繕の方向性について伺いたい。

A 県土整備部長

令和7年2月10日現在、入居待ちは246名で、多くは退去待ちの特定の住戸を希望し、そのうち84名は修繕完了待ちの状況であるが、今年度内に全ての修繕に着手できる見通しである。新たな県土整備プランでは、維持管理分野の優先投資を掲げ、社会資本ストックの適切な維持管理に取り組むこととしている。財政の健全性の確保を念頭に、投資総額を適切にマネジメントしつつ、計画的に修繕できるよう努めてまいりたい。



水野 喜徳 自由民主党
(吾妻郡)



▶ こんにゃくの消費拡大対策について

生産者団体では独自のPR活動を行っているが、県はどのような消費拡大対策を考えているのか。

A 農政部長

食生活の多様化により、こんにゃくの消費が減少している。これを転換させるため、県内の飲食店や宿泊施設に「お通し」等でこんにゃく料理を提供していただく「こんにゃく消費県民運動」を実施する予定である。また、ぐんまちゃんの型を活用した「こんにゃく手作りキット」の配布を通じ、親子で楽しみながら続けられる消費促進活動につなげたいと考える。今後も消費拡大に向けて全力で取り組んでまいりたい。



酒井 宏明 日本共産党
(前橋市)



▶ 生活保護事務の監査指導の強化について

桐生市の生活保護担当職員が刑事告発されたことを踏まえ、県として福祉事務所への監査指導をより強化すべきと考えるがどうか。

A 福祉局長

桐生市に対して実施した特別監査で得られた知見を踏まえ、今年度の監査から福祉事務所に対する監査指導を強化している。具体的には、権利侵害が生じやすい場面の検査数を大幅に増やすとともに、要保護者への権利侵害が生じていないか、生活の維持ができていないか等について、丁寧に確認している。引き続き、県内における生活保護業務が適正に実施されるよう、取り組んでまいりたい。

2月27日 (木)



秋山 健太郎 自由民主党
(太田市)



▶ 太田市中心市街地の渋滞対策について

太田市中心市街地におけるライブカメラを活用した渋滞対策の取組状況について伺いたい。



A 県土整備部長

国道407号に設置されたライブカメラの画像から車両の動きや間隔などをAIで解析し、検知した渋滞情報をリアルタイムで道路利用者に提供することにより、市街地を目的地としない車両に迂回を促し、渋滞緩和を図る社会実験を令和7年4月に実施する。今後は、本社会実験の結果を分析・検証しつつ、デジタル技術の活用を積極的に進めることで、効率的かつ効果的な渋滞対策を講じてまいりたい。



宮崎 岳志 群馬維新の会
(前橋市)



▶ 群馬県民会館について

県と前橋市との協議を実効性のあるものにするため、改修費用について県が協議のたたき台となる複数の試算を示すべきと考えるがどうか。

A 地域創生部長

建築から50年以上が経過し、施設全体が老朽化している。県民に安心・安全に活用してもらうためには、耐震補強、老朽化した設備の更新、法令適合に向けた改修、バリアフリー対応などの施設全体の改修が必要不可欠である。50億円以上という改修費の試算があるが、これは現在の施設を存続するために必要な金額である。現時点では前橋市から存続に対して強い要望がない中で、改善案の提案は不要と考えている。



中島 豪 自由民主党
(高崎市)



▶ 県産農産物のプロモーション活動について

県産農産物のブランド化対策の一つとして、G-アナライズ&PRチーム^(※3)による活動を行っているが、実績と今後の取組について伺いたい。

A 農政部長

これまで、やよいひめなど県を代表する9品目について、科学的根拠に基づき、特徴と魅力をPRしてきた。新たな取組「県産農産物の粉末化プロジェクト」では、栄養成分の濃縮化等のメリットを活かし、用途拡大と付加価値の向上を目指す。引き続き、県産農産物の認知度を高めるとともに「群馬＝健康」というブランドイメージ向上に取り組み、農業者の所得向上につながるよう努めてまいりたい。



丹羽 あゆみ 自由民主党
(みどり市)



▶ 女性にとって魅力のある地域について

女性が地域に求めるものは、「人とのつながり」であるという調査結果があるが、知事の思いを伺いたい。

A 知事

調査では、女性からは、人が集う場、楽しむ場が地域に求められている。人を引きつける魅力を持つために、他にはない価値を持つことが必要であり、若者を引きつける「デジタル・クリエイティブ産業」、世の中を動かす力のあるエンターテインメントが重要である。また、誰もが活躍できる社会の実現も必要である。わくわくするような群馬県を創り、県民の幸福度向上のため、全身全霊で取り組んでまいりたい。

2月28日 (金)



狩野 浩志 自由民主党
(前橋市)



▶ 北朝鮮による拉致問題について

県警察のホームページに掲載されている、北朝鮮による拉致の可能性を排除できない県内3人の方の捜査・調査をどのように行っているのか。

A 警察本部長

具体的な捜査・調査の内容に係る事柄については、これを明らかにした場合、今後の警察活動に支障を及ぼすおそれもあることから、回答を差し控えるが、捜査活動を通じて把握した情報や捜査の経過等については、捜査に支障のない範囲で、可能な限りご家族に対し説明をしている。3人の方について北朝鮮による拉致と断定するには至っていないが、粘り強く関連情報の収集、捜査・調査に全力を挙げてまいりたい。



安孫子 哲 安政会
(前橋市)



▶ 「世界希少・難治性疾患の日(RDD)^(※4)」の啓発活動について

2月28日は「世界希少・難治性疾患の日(RDD)」であり、足利市ではライトアップが実施されている。群馬県では啓発活動をどのように考えているか。

A 知事

「RDD」にちなんだ建物のライトアップは、難病に対する社会全体の理解を深めるための意義のある取組である。本日(2月28日)から3日間、昭和庁舎をRDDのイメージカラーである青、ピンク、緑の3色でライトアップすることとした。この取組が難病患者にとって心の支えとなり、県民が難病への理解を深める契機となることを願う。今後も難病に苦しむ患者やその家族に寄り添ってまいりたい。



亀山 貴史 自由民主党
(桐生市)



▶ 私立高等学校の授業料支援について

令和7年度当初予算において支援を拡充した、私立高等学校授業料支援事業補助金について、事業の狙いと事業規模を伺いたい。

A 生活こども部長

国の就学支援金制度では、年収目安590万円以上になると支援金が大幅に減少するため、県単独で上乗せ補助を行っている。現在、年収目安590万円以上910万円未満の世帯に対して補助を行っているが、このうち年収目安590万円以上720万円未満の世帯に対する補助を拡充し、経済的負担を軽減する。国における無償化を待たず、県としての施策を速やかに実施し、子育て世帯への支援に努めてまいりたい。



星名 建市 自由民主党
(渋川市)



▶ 群馬県の拠点性と魅力について

人口減少が続く中、都道府県域を越えた連携が必要と考える。隣接県と連携した場合、群馬県は中核を担う位置にあると考えるが、拠点性と魅力について伺いたい。

A 知事

群馬県は、上越新幹線、関越自動車道などによる近県へのアクセスの良さ、関東一少ない地震発生回数、豊かな自然など、拠点性のポテンシャルは極めて高い。知事に就任以降、群馬モデルにより日本を変えようと、情報発信をしてきたのは、このポテンシャルを高めるためである。令和6年の移住希望地ランキングで1位を獲得するなど結果も出ている。常に選ばれ続ける群馬県にしていきたい。

※3 G-アナライズ&PRチーム…県産農産物の成分を分析し、科学的根拠に基づき、その魅力をPRする知事直轄の組織
※4 RDD…Rare Disease Day の略で、世界希少・難治性疾患の日。希少・難治性疾患患者の生活の質の向上を目指す活動を実施